

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アイテム演習 帽子	各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング(装飾)など、全体のバランスを考える。 ブレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 ジュエリー	・ジュエリー・アクセサリ商品の基礎知識の習得。 ・ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ジュエリー・アクセサリ商品取り扱い店舗(高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗)における市場調査による商品研究。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 バッグ	バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技術の習得。作品を製作する中で、基礎的な製作技術を習得する。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトム、ホック付きプレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナーポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品製作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショップリサーチレポート等。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 シューズ	・基本デザイン(モカシン・パンプス)の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ	1・通年	120	4		○		○		○		
○			自由研究Ⅰ	・各課題や個人の自由実習及び、補習を行う。 ・ブランド研究(帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究) ・各種コンテストの参加 ・美術館、博物館等の見学	1・通年	60	2			○	○	○	○		
○			ハンディクラフトⅠ	企業との連携により各種のクラフトテクニックを、エンブroidアリーと布の加工に大別し、広く基礎的なテクニックを中心に習得していく。 特に、バッグ・シューズ・帽子・アクセサリなどのグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習する。 併せて、学習したテクニックが使用されている実際の商品などの資料を集めて、ブックの形式で完成させることにより、 テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。	1・通年	60	2			○	○			○	○

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。一般的な造形・デザインに対しての基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2		○		○			○	
○			色彩論・演習	色彩の基礎的な知識を習得し、ファッションデザインにおける表現力、分析力を養う事を目標とする。テキストの内容に沿った講義や実習プリントの学習を通じ、色彩の基本的な知識、配色の基礎などを理解し、ファッションの現場で活用できる能力を身につける。	1・通年	60	2	○	△		○			○	
○			デッサンⅠ	静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当然の原理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする。	1・通年	60	2			○	○				○
○			ファッションデザイン画	ファッションデザイン画は、人体のプロポーションと衣服のバランスを把握し、デザインの構造を明確に描く事が出来るよう基礎技法から幅広い画材研究まで習得し、各自のデザインワークにつなげていく事を目標とする。	1・通年	60	2			○	○			○	
○			グラフィックワークⅠ	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1・後期	30	1			○	○			○	
○			服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。 服飾造形の基礎、シャツ・ブラウスの基礎知識、縫製	1・前期	60	2			○	○			○	
○			服装解剖学	人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ造りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。	1・後期	30	1	○		△	○			○	
○			素材論	アパレルおよびファッショングッズに使用される素材について、繊維・糸・布・仕上げ加工などを主に学び、これらの知識を他教科やさらに将来の職業に生かせるよう基礎知識を充実させてゆくことを目的とする。	1・前期	30	1	○			○				○

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションビジネス概論	ファッションビジネスの特性から、変遷、現状、産業構造、業態、職種、流通、マーケティング、マーチャンダイジング、計数、販売にいたる基礎知識を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○		○		
○			クリエイション演習	デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。	1・通年	30	1		○		○			○	
○			キャリア開発Ⅰ	新入生の時点から就職を意識させ、次年度から始まる就職活動に向けた準備を整える。将来の進路を決定する大事な学生生活をどのように過ごすかの意識付けとする。	1・通年	30	1			○	○			○	
○			特別講義Ⅰ	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。	1・通年	30	1	○			○				○
○			校外研修Ⅰ	・北竜湖コミュニケーションキャンプ 2泊3日の団体生活により、学生同士や教師との親睦を深める。 ・集団行動の中で相互理解を深め協調性を学ぶことで信頼関係を築く。	1・前期	30	1			○		○	○		
学年合計				19科目	1140単位時間(38単位										

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			シ ユ ー ズ デ ザ イ ン I	基礎段階から、より具体的な素材別、アイテム別の流行に沿ったデザイン発想力を養う ・ シーズン毎の素材をテーマに、具体的な課題によるデザインスケッチ作成 ・ 市場調査とレポートによる、デザイン、カラー、素材、爪先/ヒール形状の傾向を捉える演習 ・ 国内、海外の様々なデザインコンテストへ参加	2 ・ 通 年	120	4			○	○		○		
○			シ ユ ー ズ パ タ ー ン メ ー キ ン グ I A	基本デザインのパターン設計技術の基礎を習得する ・紳士短靴基本デザインのパターン設計手順の習得 ・紳士指定ラストによる各自オリジナルデザインのパターン設計	2 ・ 前 期	90	3			○	○		○		
○			シ ユ ー ズ パ タ ー ン メ ー キ ン グ I B	基本デザインのパターン設計技術の基礎を習得する ・婦人サンダル基本デザインのパターン設計手順の習得 ・婦人指定ラストによる各自オリジナルデザインのパターン設計	2 ・ 後 期	90	3			○	○		○		
○			シ ユ ー ズ 制 作 実 技 I A	紳士短靴のオリジナルデザイン制作の実習を通じて基本的な裁断、製甲、底付け、仕上げの工程を理解する。 基礎的な手釣りのセメント製法の製造技術を習得し、作品サンプルづくりに活用する。	2 ・ 前 期	90	3			○	○		○		
○			シ ユ ー ズ 制 作 実 技 I B	婦人短靴のオリジナルデザインの制作の実習を通じて基本的な裁断、製甲、底付け、仕上げの工程を理解する。 基礎的な手釣りのセメント製法の製造技術を習得し、作品サンプルづくりに活用する。	2 ・ 後 期	90	3			○	○		○		
○			シ ユ ー ズ 造 形 I	柔軟で自由な発想によるデザイン応用力の強化 (実施内容)・オリジナル革プリント制作 ・下駄制作・ヒール制作・足型石膏採り	2 ・ 通 年	60	2			○	○		○		
○			シ ユ ー ズ 解 剖 学	多面性を持つ靴と体の関係を「足、運動そして靴」から考察することにより、靴に対する理解度と関心を深める。 講義と演習を通じ、靴や足に触れ、動かし靴と足の客観的な見方を理解する。	2 ・ 後 期	30	1	△	○		○			○	○
○			シ ユ ー ズ 素 材 論	靴に使用される甲材、底材、副資材や、各製法の特徴、道具としての靴型、サイズの仕組みなど、シューズデザイナーとして必要な知識を習得し、製品の仕様書を作成できるレベルを目指す。	2 ・ 前 期	30	1	○			○			○	
○			自由研究 II	各教科目を基に、さらに高度な技術と創造性を磨く為に、個人テーマにより研究する ・各種コンテスト ・コラボレーション企画への参加 ・美術館、博物館等の見学 ・個人テーマによる作品制作	2 ・ 通 年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要																
(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ハンディクラフトⅡ	ハンディクラフトⅠで学習したクラフトテクニックの応用。エンブroidアリー・布の加工の他にレースのテクニックも含めより高度で広範囲なテクニックの習得を目指す。シューズなどの皮革製品への応用を念頭に、よりクリエイティブな力を養うことを目標とする。	2・前期	30	1			○	○			○	○	
○			デッサンⅡ	静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当然の理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする	2・通年	60	2			○	○			○		
○			シューズデザイン画Ⅰ	シューズ基本フォームやテクニックの習得、リサーチからのインスピレーションアイデアをデザインワークに展開し表現力を高める。	2・通年	60	2			○	○			○		
○			造形デザインⅠ	ファッション工芸専門課程の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となる。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的製作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とする。	2・通年	60	2			○	○			○		
○			グラフィックワークⅡ	グラフィックワーク1修了者を対象として、Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着色ができることを目標とする。Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになることを目標とする。	2・通年	60	2			○	○			○		
○			ファッションマーケティング	1. ファッションマーケティングの基本概念を学び、企画構想力を身につける。課題演習が主体のため、マーケティング理論は、特に重要な部分を抜粋する。 2. 最新のマーケティング事例とファッションビジネス情報を解説して、業界の動向を把握し応用力を高める。	2・通年	60	2		○		○			○		
○			西洋服装史	西洋服装史の通史的、概論的講義。古代から現代に至る西洋を中心とした歴史の流れと服装の推移、発展を理解させる。 人類が古代からファッションとどのように関わってきたかを、社会背景や美意識の変化を通して19世紀まではシルエットの変遷に重点を置き、20世紀から現代まではデザイナーの仕事に注目しながら現代ファッションの生成を理解する。	2・後期	30	1	○			○			○		
○			キャリア開発Ⅱ（コミュニケーション）	●将来を考えるテーマを通し、「(読み)・聴く・書く・話す力」を養う ・世の中に関心がもてるようになる ・人前で自分の意見を堂々と言えるようになる ・グループプレゼンテーションを通し、自分のことを表現したり、チームで協働することを経験する	2・前期	30	1			○	○			○		
○			キャリア開発Ⅱ（就職対策）	●育成プロセスとして、単なるやり方を伝えるだけでなく、意識させ、繰り返してできるようになるまで行う	2・後期	30	1			○	○			○		

39单位)

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			シ ュ ー ズ デ ザ イ ン Ⅱ A	シューズデザイナーとして即戦力となることを目標に、シューズデザインⅠで習得した基本スタイルのデザイン理論・技術をもとに、ブーツなどの難易度の高いスタイルやモカシン、スニーカーなどのデザイン手法を学び、その応用によるオリジナル課題作品の制作を通じて、高品質でオリジナリティーの高いシューズデザイン力を身に付ける。	3 ・ 前期	90	3			○	○		○		
○			シ ュ ー ズ デ ザ イ ン Ⅱ B		3 ・ 後期	120	4			○	○		○		
○			シ ュ ー ズ パ タ ー ン メ ー キ ン グ Ⅱ A	シューズパターンニングⅠで習得した基礎的な型紙理論、設計技術を基に、ブーツ、スニーカー、モカシン、モンクストラップなど、より難易度の高い設計方法を学び、将来デザイナー職としても必要なパターンニング全般の知識を高める。また設計技術職での就職も視野にオリジナル課題作品の制作などを通じて即戦力になる力を身に付ける。	3 ・ 前期	90	3			○	○		○		
○			シ ュ ー ズ パ タ ー ン メ ー キ ン グ Ⅱ B		3 ・ 後期	120	4			○	○		○		
○			シ ュ ー ズ 制 作 実 技 Ⅱ A	シューズ制作実技Ⅰで習得した技術をもとに、より難易度の高いブーツ、加硫スニーカーによるハンドメイキングでの作品制作を通して、それぞれの靴製作工程での重要な品質のポイントを理解し、靴業界に就職後に必要な品質を見極める力を身に付ける。また靴メーカー生産技術職への就職にも対応できる基本的な製靴技術を習得する。	3 ・ 前期	90	3			○	○		○		
○			シ ュ ー ズ 制 作 実 技 Ⅱ B		3 ・ 後期	120	4			○	○		○		
○			シ ュ ー ズ 造 形 Ⅱ	シューズ造形Ⅰで学んできた様々な造形の表現力をもとに、究極の立体造形であり靴で最も重要な道具であるラスト(靴型)のオリジナル制作をラスト工場の協力も得て学んでいく。シューズデザイナーとして必要なラスト、モールドソールなどの立体造形の感性を高め、また将来モデルリスト(ラスト職人)などの職種への道にも繋げていく。	3 ・ 前期	60	2			○	○		○		
○			シ ュ ー ズ マ ー チ ャ ン ダ イ ジ ン グ	靴業界における開発から生産、販売までの様々な職種についての講義と合せて、チーム演習による商品化計画案作成を通して商品開発業務をシミュレートすることにより、靴業界の商品開発仕組みとその流れを学ぶ。商品化計画にあたり必要な製品仕様書、デザイン画(あるいは現物)、販売促進案などを作ることにより実践的な仕事の感覚を知る。	3 ・ 通年	60	2	△	○		○			○	○
○			シ ュ ー ズ デ ザ イ ン 画 Ⅱ	シューズデザインワークの上で即戦力として使えるデザイン画を習得。就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)作成、及び創作デザインの企画構成力を目指す。	3 ・ 前期	30	1			○	○			○	
○			造 形 デ ザ イ ン Ⅱ	1つのパーツから繋がり様々な形に変化する事は生命が細胞の集まりだという事と同じである。 自分の好きな形を1つ決める。サイズや厚み素材、色は自由。 その形だけを使ってバッグ、靴、帽子、アクセサリを作る。余裕があれば服まで制作も構わない。 それらの作品を記録し自分のブランドとして冊子を作り、展示方法を考えていく。	3 ・ 通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要															
(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファブリックスカルプチャー	I. ファブリックスカルプチャーを習得する事によって、作品への制作手法や、発想を広げる事を目的とする。 II. 布地の表現手法、素材感を演習によって経験し、最終制作での発想、企画、立案、制作までの計画性と実現力を養う。 III. ポートフォリオ制作：授業での演習作品をポートフォリオにまとめ、今後の活動に欠かさない、プレゼンテーションをする力を身につける。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			染色・プリント技法	シューズデザイン制作の新たな発想の手がかりとなるよう、基本的な染色の知識やプリント技法・素材の加工法などを実習をとおして習得する。	3・前期	30	1			○	○			○	
○			英会話	初歩の英文法を学習している学生対象のコース。ファッション関係のトピックを中心に英語表現に慣れ、初歩の会話の運用ができるようになる事を目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	○
○			特別講義Ⅲ	ファッション全般に渡る、トレンド情報やプロダクトデザイン。また、グッズに関わるクリエイターや企業デザイナーの仕事。特殊材料やその活用方法などの、多方面にわたる講師による講義や演習を通し、専門科目のより一層の充実を図ることを目標とする。	3・通年	60	2	○	△		○				○
		○	インターンシップ ^b	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事の内容を認識するとともに、学校教育では授業できない実学を学ぶ。 また、社会人としてのマナーを身につけ就職に対する意識の向上をはかる。	3・後期	30	1			○		○			○
○			卒業研究・創作	卒業作品展として各自が提案するコンセプト、テーマに基づき、3年間学んできたデザイン、パターン、製靴技術を最大限に駆使し、集大成としてのオリジナルシューズ最低3足を企画、設計、制作し組作品として完成させて、決められたスペースにて各自ディスプレイし学内外に公開。展示は、帽子・ジュエリー、バッグ科との3科合同で学生が企画し開催する。	3・後期	120	4			○	○			○	
学年合計				16科目	1140単位時間(38単位)										
総合計				56科目	3450単位時間(115単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること		1 学年の学期区分	前期・後期
		1 学期の授業期間	15週
(留意事項)			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			